

[様式14]

(対象事業：ミュージアムを核とした地域文化資源の整備・活用に係わる事業)

事業名：平成19年度芸術拠点形成事業

(ミュージアムタウン構想の推進)

「アウトサイダー・アート写真展～西
と東の交差点～」

事業者名：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

連携事業館名：

住所：滋賀県近江八幡市永原町上16

TEL：0748-36-5018

FAX：0748-36-5018

HPアドレス：<http://www.no-ma.jp/>



①施設概要

ボーダレス・アートミュージアムNO-MAは2004年6月に開館し、障害の有無ではなく、人の持つ普遍的な表現の力を視点においた展覧会を開催し、滋賀にとどまらず多くの福祉施設や団体・アーティストが参加し、多くの日本のアウトサイダー・アートを紹介する場所となっている。展覧会やイベント・講演を通して「障害者と健常者」「福祉とアート」「アートと地域社会」など様々なボーダー（境界）を超え、伝えていくことを目的としている。

②事業の意図目的

世界中のアール・ブリュット作品を撮り続けてきた著名な写真家マリオ・デル・クルト氏と、国内で障害のある方の作品やその制作風景を撮影している大西暢夫氏のアウトサイダー・アートの作品を、ボーダレス・アートミュージアムNO-MAで同時展示することによって、世界的なムーブメントとなりつつあるアウトサイダー・アートを発信し、より多くの人に障害のある人の作品がもつ躍動感や魅力を伝え、身近に感じていただく機会とする。

③事業概要

マリオ・デル・クルト氏・大西暢夫氏、二人の写真家がとらえた世界各地のアウトサイダー・アート作品や作家の制作風景を展示し、洋の東西を超え、障害の有無を超え、人の表現力が生み出す独創的で唯一無二のアウトサイダー・アートを一同に会し展示した。作品の持つ鼓動や魅力を伝える展覧会を開催した。

展覧会期中、二人の写真家がこれまでに撮ってきたアウトサイダー・アートについて、それぞれによるレクチャーを行い、より深く世界と日本のアウトサイダー・アートについて知る機会作った。

また、マリオ・デル・クルト氏は滋賀、新潟、東京と日本のアウトサイダー・アート現場へ赴き、日本のアウトサイダー・アートの息吹や文化をスイスに伝える視察を行った。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート (その他) (図録)

作成した報告書等

ビデオ (トークショー (DVD)

冊子 (

その他 (

⑤参加者状況

参加者人数 延べ 853 人

内 訳 大人762人 高大生63人 中学生以下28人

(1) 事業の実施状況について

今日、アウトサイダー・アートと呼ばれる障害のある方の造形活動に多くの人たちが関心を寄せている。海外においては、1970年、スイスのローザンヌに精神障害者や専門の教育を受けていない人々が独自の発想力で描いて生まれた作品を多く収蔵する専門的な公立美術館「アール・ブリュット・コレクション」が誕生し、世界各地から多くの人たちが訪れ、アウトサイダー・アートの迫力と魅力に出会っている。

一方、国内・滋賀では戦後間もなくから福祉施設で陶芸を中心とした造形活動が活発に行われ、数多くの作品や作家が全国に紹介されてきた。また2004年には、より多くの人たちに知ってもらい、作品の持つエネルギーを間近で感じてもらうことができる美術館として「ボードレス・アートギャラリーNO-MA」（※2007年4月にボードレス・アートミュージアムNO-MAに改称）を設立した。障害の有無ではなく、作品の持つ力を視点においた展覧会を開催し、滋賀に留まらず多くの福祉施設や団体・アーティストが参加し、多くの日本のアウトサイダー・アートを紹介する場所となった。

そして、今回の事業では、長年に渡り、アール・ブリュット作品を撮り続け、またアール・ブリュット・コレクションの専属カメラマンも務めてきたマリオ・デル・クルト氏を招聘し、マリオ・デル・クルト氏がこれまでに撮ってきた世界中のアウトサイダー・アートと、国内で障害のある方の作品やその制作風景を撮影している大西暢夫氏のアウトサイダー・アートの作品をボードレス・アートミュージアムNO-MAで同時展示した。展覧会名は「Outsider Art Photograph Exhibition～東と西の写真家がとらえたアウトサイダー・アート写真展～」として開催した。カメラのレンズを通すことによって大型造形物を始め、世界と日本のアウトサイダー・アートを同じ空間で展示することが可能となった。

会期中には関連イベントとして、より深くアウトサイダー・アートを知っていただける機会としてマリオ・デル・クルト氏、大西暢夫氏、それぞれによるアウトサイダー・アートレクチャーを行った。

またマリオ・デル・クルト氏来日中に滋賀県内はもとより日本のアウトサイダー・アート制作現場を視察した。

「Outsider Art Photograph Exhibition～東と西の写真家がとらえたアウトサイダー・アート写真展～」の大まかな日程は以下の通りである。

- | | |
|-------|------------------------------|
| 8月3日 | マリオ・デル・クルト氏来日 |
| 8月4日 | 社会福祉法人オープンスペースれがーと
アトリエ視察 |
| 8月7日 | 展覧会打ち合わせ |
| 8月8日 | 展覧会打ち合わせ |
| 8月12日 | マリオ・デル・クルト氏帰国
後援依頼（4団体） |
| 8月20日 | チラシデザイン依頼
印刷発注 |
| 9月13日 | チラシ入稿 |



NO-MA 視察・打ち合わせ

- ・ 20,000 枚印刷 2,000 箇所配布
- ・ プレスリリース発送 50 箇所
- 10月上旬 展覧会カタログデザイン依頼
カタログ印刷業者決定
展示設営プランより設営準備
出展作品と加工方法の確認
- 10月20日 設営業者決定
- 10月26日
| 展示設営
- 11月2日
- 11月3日 展覧会オープニング
- 11月8日 彦根市 佐和山遊園 泉巖さん作品視察（滋賀）
（社福）大木会もみじ・あざみ寮視察（滋賀）
- 11月9日 びわこ学園 医療福祉センター野洲視察（滋賀）
第二栗東なかよし作業所視察（滋賀）
（社福）やまなみ会やまなみ工房視察（滋賀）
（社福）しがらき会信楽青年寮視察（滋賀）
- 11月10日 滋賀県立近江学園視察
（社福）大木会 一麦寮視察（滋賀）
- 11月11日 展覧会関連イベント アウトサイダー・アート
レクチャー
レセプション
- 11月12日 南浜病院視察（新潟）
- 11月13日 （社福）愛成会 あとりえ Pangea 視察（東京）
- 12月28日 展覧会終了
- 1月3日 関係団体・出展者へのお礼文発送



展覧会展示風景



レクチャーの様子

（２）地域との連携について

マリオ・デル・クルト氏の来日中には、日本のアウトサイダー・

アートの現場への視察も行った。地域との交流と意味も含め
滋賀

県内で芸術活動の盛んな視察を中心に 9 箇所訪問した。（※
視察地

については上記の日程参照。）そのことによって、マリオ・
デルクルト氏に日本のアウトサイダー・アートの魅力を知っ
て頂く機会となり、県内施設もマリオ・デル・クルト氏を通
して世界のアウトサイダー・アートについて触れ、またボー
ダレス・アートミュージアムNO-MAの活動を知って頂く
良い機会となった。県内視察とより密につながり、情報を発



滋賀県内施設視察



信、共有していくことでアウトサイダー・アートについての周知や活性化につながって
いければ良いと考える。

(3) 成果物について

この展覧会では、マリオ・デル・クルト氏、大西暢夫氏のアウトサイダー・アート写
真を加工し展示を行った。展示した写真についてはボードレス・アートミュージアムN
O-MAが大切に保管する。

またこの展覧会では28ページからなるカタログを800冊制作し、マリオ・デル・クル
ト氏、大西暢夫氏が今回の展覧会に出展したアウトサイダー・アーティストについて作
品ともに紹介する。この図録では世界と日本のアウトサイダー・アートシーンについて
知ることができる、まさに世界と日本のアウトサイダー・アートの交差点といってよい
カタログとなった。

(4) 参加者の反応

展覧会アンケートより観覧者の声を以下にいくつか紹介する。

(アンケート回収数180件、アンケート有効回答率21%)

- ・ 今回初めてこちらに來させて頂いて「アウトサイダーアート」という身近であるよう
で身近に直視していなかった表現にあらためて触れたように感じています。(20代男
性)
- ・ 作品のエネルギーを受けて元気になります。雑念がないというか、真空なのだろうか。
その力がうらやましくもあり、社会の中では親とかも大変苦勞があるだろうと思う。
でも作家さんたちはそんなの関係ないとどんどん作って欲しい。そしてもっと見る場
が増えたらよいですね。こんなにすごいんだから。(50代女性)
- ・ 写真から各アーティストの想像力、想像力、生命力といったものがとても感じられま
した。生きること、命の強さみたいなものを感じました。(30代女性)
- ・ 建物の雰囲気も良くて、暖かみのある空間に作者それぞれが、きっと大切に日々生き
てつくった作品(写真)が静かに粋をして生きていて、心が少し豊かになった気がし
ました。とっても人間のにおいと温度のある展覧会だと思いました。(20代女性)

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

世界中のアウトサイダー・アートやアーティストをカメラに収めて來たマリオ・デ
ル・クルト氏と日本国内のアウトサイダー・アートやアーティストを収めてきた大西
暢夫氏の作品が海の東西を超え、同じ空間に並び見ることができる機会は今回が初め
での試みだった。

アウトサイダー・アートには、既に実物の作品はアーティストの死とともに捨てら
れてしまい今は写真でしか見ることができなくなった作品や作品が建造物であるため
に保管ができないものも多くあることから、写真にしか残らない作品が数多くある。写
真のレンズを通すことによってその瞬を記憶し、時間や空間を超え、私たちに人の表
現する素晴らしさや躍動を伝えてくれる。今回の展覧会では、まさに写真のもつ力を
活かし世界と日本のアウトサイダー・アートシーンをつなぎ見る人に人が表現する・
創造することの豊かさを伝えた。またアーティストの制作風景を見ることができ数

少ない機会としても多くの観覧者が訪れた。

またマリオ・デル・クルト氏の来日時に滋賀・新潟・東京のアウトサイダー・アート制作現場の視察を行ったことで、マリオ・デル・クルト氏に日本のアウトサイダー・アートを紹介する機会になり、マリオ・デル・クルト氏自身も写真を撮るなど高い関心をよせていた。

11月にはマリオ・デル・クルト氏、大西暢夫氏によるアウトサイダー・アートトークレクチャーを開催し、招待客を含め50人近くの方々が訪れた。

今回マリオ・デル・クルト氏、大西暢夫氏による展覧会を開催したことにより、アウトサイダー・アートへの関心が高まり、一般の方、美術館やギャラリーから問い合わせを数多くいただいている。今まで、日本国内においてほとんど紹介されてこなかったアウトサイダー・アートの写真を本事業で紹介したことの効果であると考えている。

6) 新聞記事等

○新聞記事

5 滋 2007年(平成19年) 11月21日 水曜日

文化 & レジャー

享月

日

楽月

月



澤田真一さんの陶芸作品(下)と、制作風景を撮影した大西暢夫さんの写真

評価や見返り求めない 自由な世界と作品紹介

る。大西さんは「世の中の人に、写真を通じていろいろな人の存在を知らせたい」と話していた。
12月28日まで、月曜休館。
観覧料一般300円。問い合わせは(0748・36・5018)へ。

アウトサイダー・アートとは、通常の枠から外れているアートのこと。病院暮らしの人や、教師や農業などの仕事についている人など、正規の美術教育を受けていない多様な人たちが独自の作品をつくり上げている。共通しているのは、評価や見返りを求めることなく、自らの世界が自由に表現されているという点だ。

東と西の写真家がとらえた アウトサイダー・アート写真展



右からマリオ・デル・クルトさん、澤田真一さん、アート・ディレクターのバトリック・J・ガイガーさん、大西暢夫さん＝近江八幡市で

「東と西の写真家がとらえたアウトサイダー・アート写真展」が、近江八幡市永原町上のボードレス・アートミュージアムNOMAで開かれている。スイス生まれの写真家マリオ・デル・クルトさん(52)、国内で活躍するフリーカメラマンの大西暢夫さん(39)らにより撮影された、国内外のアウトサイダー・アート作品やその作家の写真が展示されている。

自由、挑戦的なメッセージを展示している。被写体としては、通常の枠から外れているアートのこと。病院暮らしの人や、教師や農業などの仕事についている人など、正規の美術教育を受けていない多様な人たちが独自の作品をつくり上げている。共通しているのは、評価や見返りを求めることなく、自らの世界が自由に表現されているという点だ。

創作風景など写真に
アウトサイダー・アート紹介

近江八幡
「アウトサイダー・アート」(正規の美術教育 福井市永原町上のポータル

ス・アートミュージアム
NO-MAで開かれてい
る。二十八日まで。
出品は、写真家の大西
嶋夫さん(三十三歳)と、ス
イス出身のマリオ
・デル・クルトさん(三
十五歳)の五十点。世界各地の
料。(松浦剛行)

展示作品を鑑賞する来場者たち
近江八幡市永原町上で



行開社 2007 (日刊)

〔17〕 2007年(平成19年)12月21日(金曜日)

中日新聞

中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511 電話 052(201)9811

中日新聞 平成19年12月21日 日刊 17面

同様の新聞記事

リビング滋賀	平成19年10月27日	インフォメーション欄
京都新聞	平成19年11月4日	朝刊 26面
読売新聞	(12版) 平成19年11月25日	朝刊 25面
朝日新聞	(13版) 平成19年11月30日	朝刊 29面
京都新聞	平成19年12月1日	美メール欄
県民福井	平成19年12月13日	日刊 19面

○テレビ、関連誌等

- ・ Lmagazine 誌 11月号 ART 欄 「アウトサイダー・アート現代美術も。ボーダレス・アートミュージアム NO-MA<近江八幡>」
- ・ SpyMaster 誌 1月号 DVD-BOOK-ART 欄 「Outsider Art Photograph Exhibition〜東と西の写真家がとらえたアウトサイダー・アート写真展〜」
- ・ 美術手帳 12月号 展覧会紹介欄 「ボーダレス・アートミュージアム NO-MA Outsider Art Photograph Exhibition」
- ・ 八幡ガイド 12月 (ネット) 「東と西の写真家がとらえたアウトサイダー・アート写真展(滋賀・近江八幡市)」

